

森林レクリエーション施設の利用実態と役割

—宮崎県綾町を事例にして—

鹿児島大学農学部 松元 明弘・枚田 邦宏

1. はじめに

近年、都市は自然から離れた環境にある。そして都市住民の所得と余暇時間の増大の結果、森林を対象としたレクリエーションの需要は増大している。他方、山村地域においては、森林レクリエーションは地域振興の重要な事業として位置づけられるようになってきている。

そこで本研究では、宮崎県綾町を対象として、綾川渓谷に來訪した観光客へのアンケート調査結果を分析することで、観光事業における森林レクリエーションの位置、実態、問題点を明らかにした。

2. 綾町の観光動向

綾町は宮崎県のほぼ中央部、宮崎市の西方約20kmに位置している。公共交通機関ではバス路線が唯一のものとなっており、車で宮崎市内から約40分、宮崎空港へは車で約1時間、鹿児島空港へは高速自動車道で約1時間30分である。綾町は近年、観光客が増加しており、主な観光施設の概要を述べると以下の通りである。

照葉大吊橋は、綾川渓谷を覆う自然のままの照葉樹林の中に架けられた橋であり高さ142m、長さ250mの歩道吊橋としては、世界一の高さを誇っている。酒泉の杜は、平成元年11月に第3セクターによってオープンした産業と観光が一体になった総合文化施設である。綾城は、六百数十年前の山城を再現した、総木造り三階建の城で、場内は歴史資料館として利用されている。綾馬事公苑は初心者からベテランまで気軽に利用でき、乗馬教室も開かれている。また11月中旬には綾競馬も開催されている。式部谷ふれあい広場は照葉樹の森の中に自然を利用した遊具施設があり、子供から大人まで遊べるプレイゾーンとなっている。サイクリングターミナルは、町営の施設で、綾町を起点に、宮崎市を結ぶ25.6kmの本格的サイクリングロード等がある。川中キャンプ場は綾南川の上流にあり、夏期の間テント及びバンガローが利用できる。

以上のような施設を擁する綾町の入り込み観光者数

は、平成6年が508,000人で平成5年の418,000人に比較して約1.2倍の伸びを示している。中でも酒泉の杜、照葉大吊橋、綾城の3カ所は特に観光客が多く、それぞれの施設における平成6年の利用者数を見ると、酒泉の杜は448,283人、照葉大吊橋は191,455人、綾城については131,433人となっている。また、年間を通して各種イベントの実施、地元有機農産物の直売所の設置など、地域の資源を活かした観光事業の展開がみられる。

3. アンケート調査の内容と結果

森林レクリエーション施設として利用者の多い照葉大吊橋においてアンケート調査を行った。調査期間は平成7年11月3日から5日までの3日間で、照葉大吊橋入り口付近において実施し、3日間で272名の方の回答が得られた。

アンケートの主な質問内容は、年齢、住所などの観光客の属性、旅行日程、訪問回数、目的地、目的地の情報入手先、来訪目的、吊橋周辺施設の利用状況、綾町において充実、整備してほしい施設、森林レクリエーションについての意識と意向、綾町の印象などであるが、今回の報告では、その一部、特に観光客の動向と森林レクリエーション施設の利用実態とその問題点についてしぼって報告する。

まずはじめに利用客の動向について見ると、表-1に示したように観光客の内訳については県内客が30.9%に対して県外客が69.1%と多く、全体の約7割を占めている。そして県外客の県別をみると、鹿児島県から來た方が25.0%と最も多く、近隣の熊本県6.6%、大分県2.2%に対して福岡県が15.1%とそれに次いでいる。

また、宿泊観光か日帰りかという問いに対しては、272人中164人が日帰り、107人が宿泊と答え、宿泊客が39.5%と全体の約4割を占めている。しかし、その宿泊地については町内に宿泊した人は9人と宿泊客全体の1割にも満たない。このことから綾町の観光は日帰り観光が主体であることがわかる。

表-1 観光客の住所

地域	単位:人, %	
	人数	比率
宮崎県	84	30.9
鹿児島県	68	25.0
福岡県	41	15.1
熊本県	18	6.6
大分県	6	2.2
長崎県	5	1.8
佐賀県	3	1.1
その他	47	17.3
合計	272	100.0

注: 1) アンケート調査結果により作成
2) 比率は合計を100とした値

表-2 来訪目的地

区分	単位:人, %	
	人数	比率
照葉大吊橋・照葉樹林文化館	254	93.4
式部谷ふれあい広場	8	2.9
サイクリングターミナル	4	1.5
酒泉の杜	98	36.0
綾城・国際クラフトの城	38	14.0
その他	22	8.1

注: 1) アンケートの調査結果により作成
2) 複数回答
比率は回答総数(272名)に対する値

表-3 施設の利用状況

利用施設	単位:人, %	
	人数	比率
トイレ	161	68.8
電話	11	4.7
自動販売機	71	30.3
食堂・レストラン	38	16.2
特産品販売店	96	41.0
遊歩道	30	12.8
照葉樹林文化館	86	36.8
その他	2	0.9

注: 1) アンケート調査結果により作成
2) 複数回答
比率は回答総数(234名)に対する値

次に町内の来訪目的地に関する結果を表-2において見ると、照葉大吊橋が93.4%、酒泉の杜が36.0%、綾城が14.0%となっており、この3ヶ所が圧倒的に多く、特に照葉大吊橋に関しては綾町における重要な来訪目的となっていることがわかる。また、吊橋を目的と答えた人のうち、吊橋だけを目的地として答えた人は全体の51.8%と過半数を示しており、この施設だけで観光客をひきつける魅力が充分あることがわかる。次に観光客が吊橋周辺施設のうちどれを利用しているかを見つめる。なお少し説明すると、照葉大吊橋を渡るには、一人当たり250円の利用料が必要で、吊橋周辺の主な施設としては、森林展示館である照葉樹林文化館の他に、食堂・レストラン、特産品販売店、遊歩道などがある。吊橋に来て周辺施設で利用されたものは何ですか、という問いに対しては(表-3)、最も多かったものがトイレで全体の68.8%、ついで特産品販売店が41.0%、照葉樹林文化館が36.8%となっており、遊歩道を歩いた人は12.8%で全体の約1割と少なかった。ただし別の項目で森林レクリエーション施設について訪れてみたいものは何か、という質問の結果を見ると(表-4)「森林の中を通した遊歩道」が全体の46.3%と最も多く、他が30%以下なのに対して、半数近くの人が求めている。このように意向と現実の利用とでギャップが生じているが、これは吊橋の遊歩道に関して距離が長く、結構登り下りが多い山道であり、それなりの服装でないと気軽には入れないということがあると考えられる。ところがイメージの中での遊歩道としては奇麗に舗装された平坦な道で誰でも気軽に入れるような所と考えられており、現実の施設の内容がこれと異なっているために、このような結果になったのではないと思われる。

また他に観光客の要望としては、施設が山間部に位置することから道路の幅が狭いため、吊橋までの道路を広くしてほしいという要望が最も多かった。

4. おわりに

以上のことから綾町の森林レクリエーション施設を

表-4 森林レクリエーション施設の訪問の意向

区分	単位:人, %	
	人数	比率
森林の中を通した散策路・遊歩道	124	46.3
キャンプ場	62	23.1
周りに森林があるスポーツ施設	54	20.1
アスレチック広場	27	10.1
自然観察・野鳥観察	75	28.0
きのこ・山菜・山野草採集	79	29.5
その他	1	0.4

注: 1) アンケート調査結果により作成
2) 複数回答
比率は回答総数(268名)に対する値。

中心にした利用の実態について次のようなことが言える。第一に観光客は県内客だけにとどまらず、県外客の割合が大きいものの、距離的に近い鹿児島県が多い。しかし、高速道路網の整備により、九州北部地域からの利用も多くなっている。第二に綾町に来る観光客は日帰り観光が主体であり、町内に宿泊して観光するものは、ごくわずかである。第三に綾町において照葉大吊橋はメインの観光施設となっており、それを目的にして多くの人が訪問している魅力がある森林レクリエーション施設となっている。

今、綾町は町の活性化のために観光事業に大きな力を注いでいる。そして調査結果からもわかるように森林を活用したレクリエーション施設である照葉大吊橋が綾町の観光事業において一つの中心的な存在となっており、綾町の観光事業に果たす森林レクリエーション施設の役割は大きいと言える。しかし、吊橋の遊歩道の利用者が少ない、吊橋にいくまでの道路状態が悪い等の森林レクリエーション施設の中身については、まだ問題点があり改善の余地がある。

とはいえアンケートの結果からもわかるように観光客の潜在的な森林レクリエーションに対する期待は大きく、交通アクセス面の整備、要望に沿った施設の充実等により、照葉大吊橋周辺は、より多くの人に利用される森林レクリエーション施設となるに違いない。